

令和6年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の読み書きが十分にできていない児童がいる。 自分の思いを表現する力では、個人差が大きい。 発表したり、話をしたりすることは上手であるが、友達や教師の話を聞くことが苦手な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降も、音読の機会を増やし、ドリルやプリントなどを活用し、繰り返し練習させる。 学習内容に合わせて、様々な「表現」の方法を教え、自分に合った表現の仕方ができるようにする。【表現・発見】 ペア学習を通して他者の意見を知り、自らの学びを深める。また、他者の意見を聞くことで、話しを聞く姿勢を身に付けさせる。【対話】 本の読み聞かせをしたり、授業の中で聞いたことを短い言葉で表現したりする活動を多く取り入れる。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念や構成が十分に理解できていない児童がいる。 文章題が理解できない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物に置き換えて説明をしたり、ブロック操作をしたりしながら計算をイメージできるようにする。 他者に説明する機会を設け、理解の定着を図る。【対話・表現】 具体物や図に表すことで、文章をイメージさせる。 	B	B
生活	<ul style="list-style-type: none"> 植物の育ちの変化や成長について、気付くことはできるが、ワークシートに書き表すことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察するポイントを絞り視点を明確に示し、絵に描いたり、文章にしたりする。【発見・表現】 	B	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカについては、「できるようにになりたい」という意欲が高いが、指使いや息の使い方が分からない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書だけでなく、練習帳などに載っている他の曲にも取り組み、指使い等の基本を指導しながら多くの曲が演奏できるという自信に繋げていく。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> はさみやのり、クレヨン、絵の具等の基本的な道具をまだ上手に使えない児童がいる。 想像して描いたり、自由に発想して作ったりする場面で、自分の思いを形にするのが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技法を習得できるよう、繰り返し指導を行い、様々な材料、材質を取り入れて経験を豊かにする。 導入時、作品のアイデアを引き出すために、見本の提示や、児童の考えの交流、分かりやすい授業の流れの板書を工夫する。【対話・表現・決定】 	A	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 就学前の運動経験の差から、走る、投げる、掴むといった基本動作や柔軟性などの基礎・基本的な動きに個人差がある。 学習には意欲的に取り組む一方で、器械運動系の運動遊びについては苦手な児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な動きを取り入れた体づくり運動を取り組む中で、運動技能や体力の向上を図り、運動する楽しさを味わわせる。 「技能の習得」のみを目標にするのではなく、様々な体の動かし方、使い方を経験させ、運動に親しみ、楽しむことを中心に据えて取り組ませる。スモールステップでできたことを認め、小さな「できる」を増やし、自信をもたせていく。 	A	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章理解の話し合いで、感じたことや思いを話すことが困難な児童がいる。 正しい表記を身に付け、順序を考えて書き表す力が不十分である。 漢字を正しく読み、書く力が弱い児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数で話し合う学習形態を工夫したり、ICTの活用により書いて意見を交流する場をつくったりする。【対話】 文章の構成を考える場では、ICTを活用して試行錯誤ができるようにする。【決定】 漢字学習のソフトを活用したり、ゲーム化したりして、楽しく学習できるように工夫する。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 筋道を立てて考え、絵や言葉、式、図を使って他者に伝え、自分の考えを深めることが困難な児童がいる。 文章題を読んで立式することが難しい児童がいる。 時刻と時間の関係がイメージできていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 操作活動や絵・図をかく活動を丁寧に扱うとともに少人数で話し合う学習形態を工夫する。【対話】 めあてを明確に提示し、絵や図に表す、ワークシートを用意するなど個に応じた指導の工夫をする。【発見】 ICTを活用し、児童が進んで繰り返し学習できるようにする。【発見】 	A	A
生活	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に向け、意欲をもって粘り強く取り組む力が弱い。 話し合い活動で、自分の思いや願いを表出することが苦手な児童がいる。 活動を通して得た気付きを次の活動に活かす力が十分についていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な活動を見守り認めるとともに、解決の方法を自ら見付けられるよう支援を工夫する。【発見】 発言しない児童には、発言の機会をつくったり意思を確認したりする。【決定】 タブレットも活用して、気付いたことを自ら振り返ることができる環境をつくる。【決定】 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取って表現を工夫する力が不十分である。 音楽づくりの発想を得る子が少ない。 鍵盤ハーモニカの正しい指づかひの習得がまだできていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに聴き合いながら、それぞれの表現のよさを感じ取る場をつくる。【発表】 音遊びをする中で、児童が思い付いた考えを、実際に音に出して確かめていく場を繰り返し設定する。【決定】 書画カメラなどICT機器を活用する。 	A	A
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 表したいことを基に表し方を工夫して表す。 用具の使い方など、基本的な技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に表し方を工夫できるような指導計画や環境を設定する。【発見】 安全な使い方を十分に指導するとともに、用具を使うことから表現が広がるような指導を工夫する。【表現】 	A	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びに不安をもっている児童がおり、進んで学習に取り込めないことがある。 遊び方を工夫し、考えたことを友達に伝えることが苦手な児童がいる。 友達の良い動きを伝え合う活動が苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びへの不安を軽減する場の設定や、見通しのもたせ方を工夫する。【発見】 振り返りの時間を設定するとともに学習カードを活用して友達と伝え合う機会を作る。【決定】 友達の良い動きを擬態語や擬音語で表現したり、タブレットを活用して見合ったりする。【対話】 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文の読み取りを苦手としている児童がいる。 漢字の習熟度に個人差が見られる。 書くことに苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器などを活用して、文の構成を視覚的に理解できるようにする。【発見】 デジタルコンテンツやプリントを活用して、個別の課題に応じて繰り返し漢字練習を行えるようにする。【決定】 書く前に文章を例示したり、構成メモを使って書くことを整理したりする。毎週末に日記を書かせ、具体的に書き方の指導を行う。【決定・表現】 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 立式はできるが、図や言葉で説明することが難しい児童が多い。 四則演算の正確さが不十分な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を活用して、視覚的に理解できるようにするとともに、文章から図や言葉で表す指導を増やしたり、互いの考えを交流させたりする。【発見・対話】 個別の課題に応じて四則演算の基本的な計算方法の確認と補充プリントによる習熟を行う。【決定】 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に興味がある児童が多いが、問題を解決するための方法を考えることが難しい児童がいる。 調べたり、観察したりしたことから、共通点や差異点を見付けることには、個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために比較することの重要性に気付くようにする。また、実験は一人ずつが取り組めるように教材の工夫をする。また問題を見いだす時に、経験などを基にして自分自身の疑問から問題作りができるようにする。【発見】 実験では、ICT機器を活用して結果を記録するなど、実験・観察の視点に沿って比較しやすくする。実験後はグループで結果考察をする時間をしっかりと取り、共通点や差異点が見つけられるように進める。【発見・対話・表現】 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの地域について、興味をもって取り組むことができるが、経験が少なく学んだことをワークシートにまとめることを苦手とする児童もいる。 資料から読み取る力が弱い。また、読み取った内容から考察する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して、ワークシートへの書き込みの仕方や資料の読み方を視覚的に学習できるように工夫する。【発見・表現】 仕事の工夫や身の回りの安全についての疑問を考えさせ、学習課題をもち、互いの考えを発表し合い解決する。【対話・表現】 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音を出すときのルールを身に付けたい。 楽しく歌うことができるが、地声ではなくよい発声を身に付けることが必要である。 リコーダーの基礎的な技能（タンギングや構え方）を確実に身に付けられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい合図や活動前の声掛けを徹底する。【決定】 不自然な発声方法で歌っている場合は、その都度発声方法を確認する。【発見・表現】 座席配置を工夫したり、教師が一人一人の課題を把握して個別指導をしたりする。【発見】 	C	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 題材のめあてに合わせて、自分なりの表したいことを発想し、すぐに取りかかることのできない児童がいる。 どの学習にも楽しんで取り組むことができるが、材料や用具の経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> この題材でのめあてやお互いのアイデアを全体で共有し、自信をもって主体的に学習に取り組めるようにする。【発見・対話・決定】 扱える材料や用具に広がりがあるので、新しく使用するものについての知識や使い方を分かりやすく指導したり、繰り返し使用したりすることで、経験を重ねられるようにする。【表現】 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動を楽しもうとする児童が多い。苦手な活動には、消極的な児童がいる。 運動体験が少ないために、器械運動や投げる、蹴るなどの基本的な技能が身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画を見て、「できるポイント」を視覚的に確認できるようにする。【発見・決定】 「できるポイント」を細かく示した学習カードを作成し、互いにできているかを確認するなど、スモールステップで自分ができるようになったことを実感できるようにする。【発見・対話・決定】 	B	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習熟に個人差が見られる。 作文など「書く」ことに苦手意識をもっている児童が多い。 説明文の読み取りでは、文章の要約や文の関連をつかむことが苦手としている児童がいる。 自分の考えをもち、表現することに対して苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟に応じて、朝の時間に練習する時間を設け、定着を図る。漢字の宿題として取り組み、定着を図る。また、定期的に小テストを行う。 文章を書く前に例文を示したり、構成メモを使って書くことを整理したりする。【表現】 接続語や指示語に注目させ、文章の内容理解や文と文との関連についての理解を深められるように言葉を意識した授業を進める。 他者と意見交流をし、個別指導の際に、児童の考えに自信をもたせるよう価値付けをする。【対話・表現】 	A	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 立式はできるが、図や言葉で説明することが難しい児童が多い。 簡単な四則計算の暗算を身につけていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を活用して、視覚的に理解できるようにするとともに、他者との対話を通して自らの考えを深める。【発見・対話】 個別の課題に応じて四則演算の基本的な計算方法の確認と補充プリントによる習熟を行う。【決定】 	C	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項や生活経験を基に根拠立てて予想を立てたり、実験方法を考えたりすることに課題がある。 観察や実験に興味がある児童が多いが、問題によって調べたいという意欲の高さに差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠をもって予想を立てることができるように、共通体験の時間を設定する。また、既習事項や生活経験を想起させるような資料を提示し、それを基に解決方法を考えられるようにする。【発見・決定】 自分自身の疑問から問題作りができるよう、共通体験の時間を充実させ、その経験を基に、問題を見い出せるようにする。【発見】 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 課題について、興味をもって取り組むことができたが、調べたことをワークシートにまとめることを苦手とする児童もいる。 資料から読み取ることや、読み取った内容から考察をしたりする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる際の目的やまとめるためのポイントや視点について指導する。 ICTを活用して、資料（地図、写真等）などを提示し、気付いたことや考えたことなどを書かせる取り組みをしていく。【対話・表現】 資料から読み取れる内容を明確にし、筋道立てて理解できるようにする。【発見】 	B	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 器楽の技能の個人差が大きい。 音や音楽に対して、音楽的要素や仕組みなどの根拠を明らかにしながら考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 座席の配置を工夫したり、動画で運指を確認できるようにしたりすることで、不得手の児童を支援する。【発見】 音楽的要素や仕組みを知覚し、その働きから音楽のよさや面白さを感じ取る曲に多く触れる。【発見・表現・決定】 	C	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組むことができる児童が多いが、集中の続かない児童がいる。 手先の発達に差があり、用具や材料の特徴を生かして工夫することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 作り方の手順をスモールステップで教えて取り組ませたり、次にやることや終わった後にやることを視覚的にわかるようにしたりして、主体的に学習に取り組めるようにする。【発見】 既習の用具や材料を使用する時には、改めて実演を見せたりICTを活用して分かりやすく確認をしたり、うまくできない児童には個別に指導をしたりしていくようにする。【決定・表現】 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動を楽しもうとする児童が多い。苦手な活動には、消極的な児童もいる。 水泳運動では、多くの児童が身体の使い方が身についてきて来ているが、操作がまだ難しい児童もいる。 ボール運動での投げる力やバランスをとる力がまだ弱い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなが楽しめるように、ルールを工夫したり、簡単なゲームをしたりして興味をもてるようにする。児童に合った形で運動できるようにスモールステップで課題を設けるようにする。 自分の体の使い方を知る活動を取り入れる。ICTを活用して映像を紹介したり、自分の様子を撮影したりして、イメージがわかりやすくする。 様々な大きさや形のボールを投げる活動や体づくり運動と関連させて、体のバランスをとる活動を増やす。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字の習熟が不十分である。また語彙の幅や言葉の使い方などの知識も、もう少し広がると良い。 文章から場面を想像する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降漢字小テストなどドリル学習を行う。言葉の使い方については、単元に関わらず繰り返しプリント等で練習をする。 国語や図書の時間、朝自習の時間等に読み聞かせを行い、様々な文章に触れる。 	C	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> かけ算やわり算といった基礎的な計算力が十分に身につけていない。 文章題で問われていることが何かを理解し、既習事項を活用することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 反復練習など作業的な学習は、カフトなどクイズ形式の学習アプリを効果的に活用して計算方法の確認と補充プリントによる習熟を行う。 【決定】 文章を正しく読み取ることを意識するために、教師による意図的な発問等で促すようにする。 【発見】 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程の中で、自分や他者の気付きを基に問題を見出すことが苦手である。 観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定する。 観察、実験の結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定する。 	B	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表などの資料から、値の特徴を読み取ることはできるが、なぜそのようになるのかを考察することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取る場合、なぜそのようになるかを教科書や視聴覚教材などで確認するだけではなく、その前に自分の予想(考え)を文章にして書く練習を重ねる。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に音楽に取り組む一方で、自分と違う意見を取り入れ、多様な表現方法に繋げることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現の発表では積極的に参加できるよう、互いの表現のよさを認め合い、主体的に表現する活動の場を設定する。【対話・表現】 他者との学び合いを通して、自らの音楽表現や考えを広げていくような活動を取り入れる。【発見・決定】 	C	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組むことができる児童が多い反面、予定の時間を終わっても完成できない児童がいる。 用具や材料についての経験や技能に差があり、それらを活用して表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもって取り組むことができるように学習の振り返りカードを活用し、互いの進捗を確認しながら学習を進めていくようにする。【発見・決定】 既習事項については、改めて ICT 機器などを活用して使い方を確認したり、児童が互いに教え合ったりして、繰り返し学習の中で習得できるようにする。【表現】 	B	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験の差が大きく、掃除・調理・裁縫の実技の力に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能で達成感のある調理や作品作りを設定していく。学んだことを家庭で実践できるように、こつや注意点を教える。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を見付けることが難しく、技や技術の向上に対する意欲が低い。 チームやグループで協力することが難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 手本の動画等を見たり、自分の動きを見て振り返る機会を設けたり、スモールステップで取り組むことでできたという感覚がもてるようにし、意欲を高める。 協力することで、より上達したり記録が伸びたりする経験をさせる。 	B	B
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのやり取りを楽しみながら活動することはできる。その一方で、上手に話せない、何を言えばよいのか、意味が分からないことから苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の指示が分からずに不安に感じる場合には、ジェスチャーを取り入れて繰り返し説明したり、イラストを活用した例示をしたりすることで意味を類推できるようにする。発達段階にあった意味のある言語活動を行うようにする。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和6年度 府中市立住吉小学校授業改善推進プラン【各学年の取組】
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすい文章で伝える力が不十分な児童がいる。 話し手の意図を捉えながら聞き、目的に応じて質問をすることが苦手な児童が多い。 文章の場面から想像する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読む教材の単元では、単元の初めの段階で一人一人が構成を考えて捉える活動を取り入れ、自分が書くときや話すときに生かせるようにする。【発見】 話し手の意図を意識しながら聞く姿勢をもたせる。さらに、尋ねるべきことを考えて質問させるようにする。【対話・決定・表現】 語句の意味や文のつながりを意識しながら人物像や全体像を想像したり、要旨を的確に捉えられたりするよう指導を充実させる。【発見】 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 分数や小数の大小の比較や計算に課題がある児童が多い。 問題解決を自分の言葉で分かりやすく説明する力が十分でない児童が多い。 問題文の意味を捉え、筋道を立てて考えたり、既習事項を活用して問題を解決することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 通分、約分が正しく速く処理できるようにするために計算練習を取り入れる。【発見】 習熟度に合わせ、文章の形式や構成を示す。【発見】 学習問題について、図、表、式を活用して内容の理解を深めたり、他者との対話を通して自らの考えを深めたりさせる。【発見・対話・決定】 既習事項を生かし、新しい知識・技能と関連付けて獲得できるように、複数の考え方を検討する。【発見・決定】 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 動物や植物の体のつくりとその働き、生物と環境との関わりについて、それらの仕組みや働きや関わりについて文で表現する力に課題がある。 生活経験から、問題に対する結果の予想を立てることができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 考察の場面では、時間を十分に確保する。そして、なぜそうなるのかを、教科書などの資料や実験結果を参考にしながら記述したり、説明したりする活動を増やしていく。【決定・表現】 身近な自然の事物・現象に触れる機会を多く取り、気付いたことを焦点化しながら確認していく。【発見】 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の知識の定着が難しい児童がいる。 提示した資料から読み取ろうとする意欲は高いが、読み取った事項について事実を元に理由を推測する力に課題がある。 読み取った事実から「自分ならこう考える」と、自分の意見につなげて考える力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の初めにこれまでの時代の出来事や人物について確認したり、友達に説明したりする活動を設定して定着を図る。【発見・対話】 複数の資料を比較して、資料から分かることをノートにまとめたり、グループで話し合ったりする活動を多く設定していく。【決定・対話】 当時の人の気持ちを想像させ、資料の中のものをできるだけ自分たちに近いものとしてとらえさせる。【決定・表現】 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱での美しい発音や強弱、ブレスなど、表現の工夫をすることに課題がある。 変声期に差し掛かる男子や恥ずかしさが強く出る女子など、表現活動に対して抵抗がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図を明確にもつことができる教材を選択し、表現の場までの練習に見通しをもつことができるように活動を提示する。【発見・決定】 スモールステップで目標を設定し、達成する経験を多く積むことで、自分の声や表現への自信を高めさせる。【発見・表現・決定】 	C	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に取り組むことができる児童が多いが、めあてから外れたり、よりよくするための根気が続かない児童がいる。 自分なりの表したいことを見付け、表現できる児童が多いが、発想の広がらない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の学習でめあてを確認する。また、お互いの作品を見て丁寧に仕上げることのよさを感じ合ったり、個別で声掛けをしたりしながら、急がずじっくりと学習に取り組めるよう支援する。【決定・表現】 学習の導入で互いのアイデアを共有したり、作成の途中で鑑賞の時間を入れたりして、お互いの発想を共有できるようにする。【発見・対話】 	C	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験の差が大きく、掃除・調理・裁縫の実技の力に個人差が大きい。 学んだことを生活に生かそうとする意欲の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能で達成感のある調理や作品作りを設定していく。【発見・表現】 学んだことを家庭で実践できるように、こつや注意点を教える。【発見】 	B	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動課題を見付け、その解決のための活動を工夫する力に課題がある。 各種運動に積極的に取り組み、場や用具の安全に留意できる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動課題に気付かせるよう、ICT機器を使って、自分の動きを振り返ることができるようにする。また、課題解決のための場を設定する。【発見・決定】 様々な領域の運動に親しめるように、グループ学習や運動の特性に応じた楽しさを味わえる活動を取り入れる。【対話・表現】 	A	A
外国語	<ul style="list-style-type: none"> リスニングにおいて知っている単語を聞き取ることができ、話の大体の内容を掴む力に課題がある。 アルファベットを使って書く力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習表現を使ったスモールトークを適宜入れながら外国語の表現に触れる機会を増やす。【発見】 書く活動を取り入れ、アルファベットを書く機会を確保する。【表現】 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。